

1. 評価結果概要表

作成日 22 年 1 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870300330
法人名	ケアファースト株式会社
事業所名	グループホームらくらく
所在地	越前市稲寄町12-8-5 (電話) 0778-22-0055

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成22年11月20日	評価確定日	平成22年1月29日

【情報提供票より】 (21 年 9 月 26 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 23 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7 人、非常勤 3 人、常勤換算 8.3 人	

(2)建物概要

建物構造	木造ストレート葺き 造り
	2 階建ての ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	500 円	おやつ	150 円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3	要介護2	4
要介護3	2	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 86.4 歳	最低 82 歳	最高 92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	東武内科外科クリニック しみずクリニック 宮本歯科クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの運営母体は、以前から通所介護・訪問介護のサービスを行っていた。その利用者や家族との関わりの中で、「宿泊できる施設を作って欲しい」という強い要望があった。その声を受け、利用者や家族の希望を叶えたいという施設長の強い思いで平成16年に立ち上げたホームである。
当ホームは、越前市中心部から少し離れた田園地帯の集落到立地しており、周辺にはサンドーム福井や大きなスーパーなどがあり、散歩や買い物など、外出しやすい環境にある。木造平屋建てで天井も高く、十分な採光でゆったり広々とした居住空間がある。野菜や草花が植えられた中庭には、リビングから入居者が自由に出入りでき自然を肌で感じることができる。また、居室には、入居者の馴染みのものが持ち込まれ家庭的な雰囲気が感じられる。
平成21年5月に管理者が変わり、入居者と職員の笑顔があふれる暮らしを目指した理念に変えた。今後も、入居者が地域の一員として溶け込み、笑顔あふれる暮らしを支援していくことを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で指摘のあった「重度化や終末期の方針」については、事業所として体制が整っていないため、支援できない方針を伝え、重度化した場合は次の支援先の相談に応じている。 「運営推進会議を活かした取り組み」、「地域との付き合い」については、引き続き検討することを期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、管理者と副主任が作成している。 今後は、全職員に外部評価受審の目的や意義を伝えた上で、自己評価に取り組み、気づきを共有し日頃のケアの振り返りやさらなるサービスの向上につなげることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 運営推進会議は、入居者家族・区長・民生委員・第三者委員・自警隊副隊長・市介護保険室長等に参加してもらい、3か月に1回開催している。会議では、ホームの運営状況を報告後、各委員から意見・要望・提案等をもらっている。特に、入居者の地域活動への参加について検討を重ねており、委員がそれぞれの立場で提案するなど、有意義な会議となっている。 今後、参加が少ない家族や地域包括支援センター職員に対しても、引き続き呼びかけ、さまざまな立場で意見がもらえるようになることを期待したい。また、自己評価や外部評価結果も報告し、改善に向けた協議を期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 家族からの意見・苦情等は、入居者に面会に来られた時に職員が直接聴くようにしている。職員は、何でも気兼ねなく話してもらえるように玄関先に相談についての案内を掲示するなど、配慮している。 また、意見箱を玄関に設置しているが、今のところ利用はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目、外部3) 地域との交流については、踊り・太鼓・詩吟等の演芸ボランティアを受け入れたり、老人会が毎月当ホームで実施しているカラオケ大会に参加しているが、その他に地域住民との交流はほとんどなく、今後の課題として認識している。 ホームが地域から孤立することがないように、地域との交流について引き続き運営推進会議での検討を期待したい。また、地域住民にホームを理解してもらえるように、ホームの事業や取り組みなどを掲載した広報紙の配布も期待したい。

2. 評価結果（詳細）

■は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成21年5月に管理者が変わった際に全職員で理念を見直し、笑顔キーワードにした「笑顔がみたい 笑顔でいたい」に変えし、ホーム内に掲示している。 職員は、理念に基づき入居者が笑顔でいられるような暖かいケアを目指している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎日の申し送り時に必ず唱和するだけでなく、入居者との関わりにおいても理念を意識したケアに取り組んでいる。		
		2 地域との支えあい			
■	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流については、踊り・太鼓・詩吟等の演芸ボランティアを受け入れたり、毎月当ホームで行われる老人会主催のカラオケ大会に参加しているが、その他に地域住民との交流はほとんどなく、ホームも今後の課題として認識している。		ホームが地域から孤立することがないよう、地域との交流について引き続き運営推進会議での検討を期待したい。また、地域住民にホームを理解してもらえるように、ホームの事業や取り組みなどを掲載した広報紙の配布も期待したい。
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は管理者と副主任が作成し、他の職員は関わっていない。		全職員に外部評価受審の目的や意義を伝えた上で、自己評価に取り組み、気づきを共有し日頃のケアの振り返りやさらなるサービスの向上につなげることを期待したい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族・区長・民生委員・第三者委員・自警隊副隊長・市介護保険室長等に参加してもらい、3か月に1回開催している。会議では、ホームの運営状況を報告後、各委員から意見・要望・提案等ももらっている。特に、入居者の地域活動への参加について検討を重ねており、委員がそれぞれの立場で提案するなど、有意義な会議となっている。		参加の少ない家族や地域包括支援センター職員についても、引き続き参加を呼びかけ、さまざまな立場で意見がもらえるようになることを期待したい。また、自己評価や外部評価結果も報告し、改善に向けた協議を期待したい。
	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営で困難な事例が発生した時は市町担当者に相談し、アドバイスをもらっている。		
		4 理念を実践するための体制			
	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が入居者の面会に来られた時に、日頃の様子を報告している。また、毎月広報紙「らくらく便り」に本人の生活状況を書き添え家族に送付している。緊急に連絡が必要な場合は、その都度電話で対応している。		
	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見・苦情等は、入居者に面会に来られた時に職員が直接聴くようにしている。職員は、何でも気兼ねなく話してもらえるように玄関先に相談についての案内を掲示するなど、配慮している。また、意見箱を玄関に設置しているが、今のところ利用はない。		家族同士が気軽に意見が言える場として、家族会等の設立も期待したい。
	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はないが、新規採用の際は引継ぎの期間を十分に設け入居者の不安を解消するようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		5 人材の育成と支援			
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、職員は計画に基づいて内部・外部研修に参加している。 外部研修に参加した職員は、ミーティングで伝達研修を行い研修内容を共有している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成21年9月に県グループホーム連絡協議会に加入したところであり、今後は同業者と積極的に交流を図っていききたいという管理者の強い思いがヒアリングから確認できた。		
		安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望された方には、管理者が本人と面談し思いをよく聴くように心がけている。また、ホームの説明を十分に行った上で、本人・家族にホームを見学し雰囲気体験してもらい、納得の上で入居してもらうようにしている。		
		2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から漬物の作り方や靴下や衣類の繕い方等を教えてもらったり、悩み事を相談しアドバイスをもらうなど、職員は入居者のペースにあわせて共に学び支えあう関係に努めている。		
		その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握			
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人の思いや意向を聞き、家族からも情報をもらっている。また、入居後は、職員が入居者の日々の行動を観察し声かけ・傾聴して把握するように努めている。		
		2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや希望を事前に聴きとり、担当職員の意見等を踏まえ、入居者が笑顔でいられるような入居者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の多くが日常生活自立度が軽度で安定している方なので、介護計画の見直しは3～6か月に1回を目安に行い、その経過を介護計画に沿って記録している。 状況により早急な見直しが必要な場合には、その都度見直ししている。		
		3 多機能性を活かした柔軟な支援			
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接している通所介護事業所と行事等を通じた交流や同事業所で機能訓練などのサービスを受けることができる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。受診については原則として家族にお願いしている。 また、月に2回、協力医からの往診もある。		受診時に家族が同行した際には、受診の結果や病状について共有できるように期待したい。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期について事業所としては体制が整っていないため支援できない方針を伝えているが、本人・家族が安心出来るように次の支援先が決まるまで相談に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に本人・家族にホームとしての個人情報の取り扱いについて説明している。また、利用者は人生の先輩であり尊敬の気持ちを持って接するように申し送りやカンファレンス時に管理者が職員を指導している。 訪問調査時、職員の態度・言葉使い・トイレ誘導について適切に行われていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして基本的な1日の流れはあるが、入居者の体調・様子を見守りながら支援している。レクリエーション・散歩・買い物等についても本人の希望に合わせて柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好みを聞き献立に取り入れられたり、職員が同じテーブルを囲んで食事するなど、楽しんで食事ができることを大切にしている。また、調理や片付けも入居者と職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・火・木・金曜の午後に入浴できるように設定している。基本的には1人あたり週2回の入浴となっているが、その日の体調や気分に合わせて調整している。 また、薬湯やハーブ湯などで入浴を楽しんでもらっている。		本人のこれまでの生活習慣や希望にできる限り合わせた時間に入浴できるように支援を期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者に張り合いある生活を送ってもらうため、一人ひとりの得意なことを活かして、年賀状書き・野菜作り・草取りなどを職員と一緒に楽しみながら行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しや近所への散歩等に職員が付き添い出かけている。また、馴染みの美容室への付き添いなどにも一人ひとりの希望に沿って対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物がL字型の構造になっており、死角となるため玄関は常時錠錠している。		職員の見守りを徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かく把握し、外出しようとする方には職員が同行するなど、日中は玄関の鍵をかけずに安全に過ごせる工夫を期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、日中・夜間時を想定した避難訓練を実施している。また、訓練には、地域の自警団にも参加してもらっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは栄養バランスを考慮し作られている。また、入居者一人ひとりの栄養・水分摂取量について記録している。水分補給については1日に何度も時間を設けている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、リビングにはテレビ・写真・入居者が作った作品等が飾られている。また、野菜や草花が植えられた中庭には自由に出入りでき、自然を肌で感じることができる。こたつやソファも置かれ、各自が居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居者の馴染みの物や家具・布団などが持ち込まれ、入居者が居心地良く過ごせるように配慮している。		

自己評価票

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔キーワードにした理念を作成し、その人がいつでも笑顔でいられる様、優しさをモットーに暖かなケアを目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕の申し送り時、理念を確認するようにしている。一人一人が笑顔を心がけている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	初回面接時や契約時、思いとして伝えている。地域とは運営推進懇談会で伝えている。		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員の意識をより高く向上させる為に、カンファレンス等で散歩の重要性を話したり、ホームの前の川で子供たちがザリガニをよくとっているのを仲間に入るようにと話している。		散歩など毎日外出を続けていれば、おのずと隣近所との交流は生まれてくると思う。職員一人一人が意識を高めれば可能になる。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に一度、ホーム横デイサービスでカラオケ大会(老人会)をし、ホーム利用者も参加する位で、地域住民との交流はほとんどない。		隣近所との交流ができれば自治会、老人会、地域行事参加はついてくると思う。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特にしていない。		近所との交流を活発にし、気軽に出入りできるような雰囲気を作り、介護相談などできるとよい。
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の結果や今回の自己評価を通して、業務全体の見直しを行い、改善すべき点は改善の努力を続けている。		評価結果を浸透させ、意識改革を徐々に行うことで、明るく活動的なグループホームを目指したい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進懇談会を開き、状況報告をしている。地域住民、家族の意見も業務改善の参考とさせていただいている。		家族の意識が低いように思える為、もっと家族とのコミュニケーションを重視する為にも運営推進懇談会への参加を呼びかけていきたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例発生時、市町村担当者に相談し、誠実に対応してもらっている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を作っている。成年後見制度は現在進行中の利用者があり、支援している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し学ぶ機会を作っており、報告をミーティング等で行い周知を図っている。		
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に時間がかかる旨伝え、余裕を持って契約に臨む十分な説明をし、十分に質問できる環境を作り、理解、納得してもらっている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が自由に意見や不満、苦情を言える雰囲気はあるように思う。カンファレンス等で話し合い、改善している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者個人の近況を記したホーム便りを送っている。金銭管理については立替払いし、毎月報告し精算している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情などを受け付けるご意見箱を設置している。又、苦情などの受付先を玄関に貼り出している。家族が来所時、都度聞いており、申し送り時などに改善を図っている。		家族とも本音で会話できるよう、その方法を検討中(例:家族会の設置)。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝・夕の申し送り時、気づいた点を言う。月に一度の全員出席のカンファレンス時、意見・提案をする機会を設けている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	花火見物や秋祭りなど夜間の外出時などにも対応できる様、職員同士が普段から連絡しあい、不公平感のないよう調整している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はないが、離職に関しては時間的余裕を持ち、代わりの職員と協力し、利用者に接するようにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通じた研修計画に基づいて職員が研修に参加している。研修成果はレポートにし、ミーティング等でお互いに学習し合っている。		職員の適性を見極め、介護技術以外ではその職員に合った研修を薦め、現場で活かせるよう働きかけている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、退所して特養などに移った元利用者を利用者・職員で訪問し、訪問先の利用者や職員と交流している。		グループホーム協議会に参加し、交流を深める努力をしたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士が普段から仲良くし、得意分野を活かせるような仕事の分担をし、苦手分野では手助けを気軽に求められるよう話し合っている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者として職員の向上心に期待しているが、利用者に対して「してあげる」という意識がなかなか抜かず、改革の途中である。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所申し込み時、本人の思いをよく聴く。利用開始前から本人の経過を記録し、面談を通して更によく知るようになっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入所申し込み時、家族の事情、本人の状況等よく聴き、本人の支援経過に記録している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、本人面談をしっかりと行い、その人に合ったと思われるサービスを提案している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	朝・夕の申し送り時、職員同士で話し合い、馴染んでもらうための工夫をし、家族に了解をもらいながら実践している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ほぼ自立の利用者が大半なので、日常生活を送る上で必要な行為は一緒に笑いあいながらするようにしている。職員の悩みなども聞いてもらいアドバイスしてもらっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	通院は基本的に家族対応。家族が来所した際、近況報告やリハビリの成果など話し、帰宅されての外泊などお願いしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が希望すれば電話はいつでもOK。我々で決定できない事は本人の気持ちを最優先にし、家族との調整を図っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族も含め、友人、隣人など来所して下されば、必ず再度の訪問をお願いし、連絡先を伺い、普段の利用者との会話の中にそれらの人の話題を出している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の利用者を十分に理解し、孤立しないように職員が仲間に加わり、会話やゲームを楽しんでいる。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も当ホームの利用者の希望でサービス終了者の入所施設を訪問している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人から希望・意向を聴く他、日々の様子で思いを汲み取っている。家族からも過去の暮らしぶりを聞くよう努めている。		センター方式を使用。担当の職員がきめ細かな対応をして把握できるよう目指している。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等、聞き取りを行い把握に努めている。		センター方式を使用。本人、家族等から聞き取り、把握できるよう目指している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	これまでの生活そのままを継続していきたいが、悲しいかな施設なので、入浴、食事など本人の意にそわない部分がある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人が笑顔でいられるようなケアをするために注意深く観察し、家族や関係者、担当者などと話し合い、計画を作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画実施後モニタリングを経て、3～6ヶ月毎に見直しをしている。見直しにあたっては本人、家族、職員と意見交換を行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や排泄チェック、バイタルチェックを毎日記録。生活記録には日々の様子やケアの実践を記録している。申し送り、カンファレンス等で気づきや工夫を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接するデイと連携し、入所待ちの間のデイ利用、レク時交流、外出時合同で出かけるなどしている。デイの看護師からも随時支援を受け、ケア面でのフォローがなされている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年2回の避難訓練に地域住民、民生委員などの参加をお願いし、消防に協力してもらっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所前の担当ケアマネージャーとは連携を密にし、入所後本人の意向にそのようなケアをしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	困難事例の相談をしている程度。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度ホームのかかりつけ医の往診がある。入所前のかかりつけ医を希望されれば、家族対応をお願いしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所時、専門医の診断を受け、かかりつけ医との連携をとり、職員も個々の利用者に対する接し方を統一している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接するデイの看護師やかかりつけ医院の看護師と常に連絡、相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中は本人、家族、病院側と連絡を密にとりあい、又、かかりつけ医の指導をあおぎ、急な入院にも対応できるようにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期はやらない。重度化しない様なケアを心がけ、時期をみて家族がかかりつけ医と相談しながら、本人にとって最もよい方法を選択できるよう普段から話し合っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化が見込まれるような時は朝・昼・夜の状態を皆で十分に協議し、その人にとって一番良い方法を選択する。できない事に関しては家族に話し納得してもらう。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人との話し合いが困難な場合、家族と充分話し合い、住み替える場所の見学、相手方との話し合い、情報交換、ケア会議を開く。本人の体調等考慮して住み替え時期を検討している。経過記録にも記載している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩という尊敬の気持ちをもって接していれば、誇りを損ねる様な言葉かけや対応はできない、と申し送り時やカンファレンス時、常に職員と話し合っている。個人情報の方は一々のため同意書をもらっている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>可能な限り職員側で決める様な事はせず、本人の思いや希望を聞いた上で支援し、自己決定で暮らしていける様に努めている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日の大体の流れを決めているが、外出する時でも天気、利用者の体調、ペースを考え、できる限り家にいるような気持ちになれる様ゆったりと過ごしている。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人が希望すれば馴染みの理・美容室へ行っていただいている。衣類の購入等、できるだけ本人同伴で好みの物を選んでいただいている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は利用者と職員が同じテーブルについて会話を楽しみながら行っている。可能な利用者とはできる限り下準備や調理、片付けなど一緒にしている。一人一人の好物を聞き、献立に工夫をしている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ホーム内であり酒は出していない。飲み物、おやつはその日の冷蔵庫内にあるもので注文をとっている。たばこは他の利用者の迷惑にならない範囲にて、寝たばこは遠慮してもらっているが、自由に楽しんでもらっている。</p>		<p>お酒に関しては、家族に飲んだ時の状況を聞いて、他の利用者の迷惑にならないようなら、今後少しずつ出していきたい。</p>

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各居室にトイレがあり、プライバシーの確保をしている。排泄記録を作り、排便には特に注意し、便秘にならないように気をつけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調やその日の気分には留意しているが、施設的になっている。薬湯やハーブ湯など実施し、楽しんでもらっている。		その人が今まで日常的に行ってきた入浴の仕方に入浴してもらいたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の時間の流れの中で、食事、入浴、リハビリなど決められた事以外は自由にしてもらえる雰囲気作りを目指している。あくまでも集団生活なので、他の利用者の迷惑になる行為については家族としてお願いしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今までしてきた仕事や好きな事、得意な事を普段の会話の中から見つけ出し、職員と一緒に楽しみながら行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は必要な買い物はホームの立て替えで、利用者はお金を所持していない。利用料請求時に立て替え分を請求している。		以前は重症化した利用者が多く、本人による金銭管理の必要性を感じる事が少なかったが、現在はとても強く感じている。立て替えによるお金を財布の中に入れることがあるが、本人納得していない様子。熟考中。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課にしている利用者、買い物の好きな利用者、家に帰りたい利用者など個々の希望に合わせた外出を支援している。又、畑の手入れや草むしりなどで戸外に出ている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間の行事として花見や祭りへの参加、菊人形などへ、去年までは一斉に行っていたが、グループホームということで家族として少人数で行くようにし、家族に声かけもしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族の都合を考えた上で、なるべく自由にかけてもらうようにしている。遠くに住む家族に手紙を出したり、年賀状や暑中見舞いなど出している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	現在、新型インフルエンザがまん延中のため、家族にはその旨お知らせしている。馴染みの人たちの訪問はとても喜ばれるので職員共々歓迎している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>契約時、身体拘束に関する同意書はいただいているが、拘束はしない方針。ただ、玄関が死角になるため施錠してある。中庭からは自由に入出入りできる。</p>		<p>「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」については今後全職員が理解するようにする。</p>
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>自立し一人を好む利用者であれば居室の鍵が弊害とは思わない。当ホームの場合、玄関が死角となるので施錠してあるが、現在の利用者であれば不必要と考えている。</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>居室を家とみなしており、訪室の際は必ずロックし許可を得ている。夜間においては定時の巡視、異変の際の訪室で安全確認をしている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>担当者が決まっており、その利用者をよく知りぬいた上で薬の管理などまかせている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>救急救命訓練に参加。知識も学び、又、緊急時の対応を表にしてよく分かる所に貼り出している。個々の利用者の様子については電話の横にノートが吊ってある。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>救急救命訓練に参加。昼間と夜間の消防訓練に参加し、実技を行い一人一人が身につくようにしている(社内で定期的に行っている)。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に2回、日中と夜間に想定した避難訓練を実施し、地域の自警隊の参加をお願いしている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>初回面接時、契約時に説明し、同意を得ている。家族訪問時、現況説明(本人の前で)。遠方に住む家族には、都度、電話や手紙で説明。了承を得てケアしている(例えばPTイレ使用開始やオムツ使用開始時など)。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>朝のバイタルチェック、毎日の排泄チェック、顔色、食欲、意欲など注意深く観察。隣接するデイには看護師がおり、指示をあおいでいる。又、日頃から往診してもらっている医師と気軽に相談できるようにしている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>担当職員を決め、薬に関することは何でもわかるようにしておくことと指導している。非番の対応のため、一人の利用者に担当職員は二人。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排便チェックはしているが、自立している利用者が多く、プライバシーに配慮しながら便秘しているかどうか確認。水分摂取や運動に気を配り、散歩も積極的に行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立している利用者が多いため、食後の口腔ケアは声かけ程度。様子をみて確認する。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作り、バランスをとる。量は一人一人の日頃の量から判断し盛り付けをしている。食事は生活記録にチェックしている。		現在、水分量の項目が生活記録にないため、項目を新設する。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルや研修等で学ぶ。日頃から職員同士で情報交換をし知識をつけておく。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は献立をみてほとんど毎日買い物に行き、新鮮なものを使い切る。片付け後、熱風消毒、ハイター消毒など必ず行い、表にチェックしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が死角となるため、普段は施錠している。中庭からは自由に出入りできるが、歩行不安定の利用者には必ずしも安全とは言えない。家族や知人は訪ねてくるが、隣近所の人たちの訪問はない。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは家庭的なテーブルやソファセットが配置され、畳敷きのスペースもある。中庭に面した部分はガラス戸で、ウッドデッキや季節の野菜や花も見える。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル、ソファ、畳コーナーなど好きなように過ごせるよう工夫してある。天気の良い日には中庭ウッドデッキのベンチも心地よく過ごせる。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居にあたり、それまでの馴染みの家具や小物、衣類の持ち込みがなされている。又、自分の作品を飾るなど利用者が独自で心地良い部屋作りをしている。隣室の物音が気になる利用者もいるため一人一人の居室の配置も考えている。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節により違うが、できる限り窓を開けておく。室温、湿度にも注意している。温度については利用者の実際の体感に応じて調整している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを適所に設置し、居室内では安全に移動できるようにしている。ホールは広く、杖、歩行器、老人車使用で安全に移動できる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立している利用者が多く、きちんと話し合えばお互いを納得できる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に作った畑、ウッドデッキでの喫煙や世間話、天気の良い日は一緒に洗濯物を干す、取り入れるなどしている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

本来のグループホームのあり方としての共同生活を実現するため、要介護度4以上の利用者には家族と充分相談の上、施設入所をお願いした。現在の入居者は認知の程度は様々だが、日常生活は少しのケアでほとんど自立されており、職員やお仲間と一緒に食事をしたり、買い物に行ったり、その日の天気や体調をみて出かけていったりとワイワイガヤガヤ、大家族のように生活している。入居者さんの笑顔が見たい一心でケアをすれば、こちらも笑顔になり毎日の業務が楽しくなる。自立した入居者さんが多いと必然的に要求も多くなり、職員が対応に困り、他の入居者さんに相談するような時もある。まさに人生の大先輩として職員全員が入居者さんを尊敬していれば、自然と言葉遣いや態度にもあらわれてくる。